

令和2年度豊かなむらづくり顕彰事業 実施概要

本顕彰事業は、集落等におけるむらづくり活動や農業生産活動に顕著な業績を収めている団体等を表彰するとともに、その活動内容を広く紹介することにより、農林水産業・農山漁村の活性化等に寄与することを目的に、関係機関・団体の御支援をいただきながら昭和56年より実施しており、本年度で39回目を迎えました。

これまで「むらづくり部門」で176団体、「農業生産部門」で95団体の合わせて271団体が、本県における「むらづくり」の模範的な団体として受賞されています。

内 容	時 期
事業募集	令和2年4月9日(木)
現地調査	令和2年8月31日(月)~9月4日(金) うち4日間
予備審査会	令和2年10月30日(金) 10:00~12:00 ところ: 杉妻会館4階 牡丹
本審査会	令和2年11月27日(金) 10:00~12:00 ところ: 杉妻会館3階 百合
表彰式	令和3年1月18日(月) 10:45~11:35 ところ: 杉妻会館4階 牡丹

令和2年度豊かなむらづくり顕彰事業 審査講評

本年度は、2市2町から「むらづくり部門」に1団体、「農業生産部門」に3団体の合わせて4団体の御推薦をいただきました。

「むらづくり部門」では、二本松市の「企業組合さくらの郷」が「桜とともに地域活性化を目指して」、「農業生産部門」では、郡山市の「福島さくら農業協同組合郡山地区湖南夏秋とまと生産部会」が「なりわいとして、ひとと地域が育んだ誇り輝く湖南夏秋トマト産地」、小野町の「生産組合 ペルサルレーテ」が「小野町自慢の6次化商品 黒にんにくで町を活性化」、猪苗代町の「会津よつば農業協同組合猪苗代稲作部会」が「ブランド米による地域活性化の取組」とそれぞれのスローガンの下、地域の特色を生かし、創意工夫を重ねながら、個性的なむらづくりや農業生産活動が実践されています。

農山漁村に受け継がれた豊かな資源を活用して、地域の潜在的な活力を引き出し、地域の絆を推進力として大きな成果を挙げている活動は、本県農業・農村の再生、発展に大きな弾みとなるものであります。

審査会では、いずれの推薦団体においても、今後一層の発展が期待され、他地域の模範となるものと高く評価できることから、令和2年度豊かなむらづくり顕彰事業の受賞団体として決定いたしました。

なかでも、「企業組合さくらの郷」は、数名の女性農業者により開設した直売所の取組を拡大させ、地産地消にこだわった組合オリジナル商品の開発や創意工夫をこらした「食」の提供をはじめ、イベントや小学生等を対象にした蕎麦打ち体験教室の開催などにより、入込客数を伸ばすとともに、地域内での蕎麦生産により、遊休農地の解消を図っています。更には、施設周辺環境美化にも取り組み、地域農業の振興や食農教育など多様な活動を実践しており、交流拠点として地域活性化に大きく寄与しております。「企業組合さくらの郷」は今後も更なる発展が期待され、本表彰事業の趣旨に最もふさわしい団体であることから令和3年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」に本県代表として推薦することといたしました。

各受賞団体の皆様には、今後もむらづくり活動に積極的に取り組まれ、豊かで活力あふれる地域を次世代に繋げていくとともに、本県農林水産業並びに農山漁村の健全な発展に引き続き御尽力くださいますようお願いいたします。

(審査長 福島県農林水産部長 松崎 浩司)

令和2年度豊かなむらづくり顕彰事業 受賞団体の概要

【むらづくり部門】

◆企業組合さくらの郷（二本松市）

キャッチフレーズ：「桜とともに地域活性化を目指して」



一人一人の力を合わせて地域の活性化に取り組む
企業組合さくらの郷の皆さん

二本松市（旧岩代町）新殿地区において、かつて盛んであった養蚕業の衰退から地域の活気を取り戻そうと、6名の女性農業者が平成12年に農産物直売所「べし新殿」を開設。直売の取組を徐々に拡大し、平成15年に会員数60名の任意組織「岩代町農産物直売所管理組合」を設立、平成17年には二本松市（旧岩代町）が設置した農産物直売施設「さくらの郷」の指定管理者となった。

平成24年からは「企業組合さくらの郷」として法人化し、現在84名で地元農産物の販売や加工等の取組を展開している。

平成25年には、「さくらの郷」が「道の駅」として登録されるのと併せて農村交流施設として機能が強化された。平成28年に二本松市により新設された加工所をフルに活用し、地元農産物を使用したオリジナル商品を次々に開発するほか、惣菜や菓子、ピザ等の加工品、組合員が栽培した蕎麦を原料とする手打ち蕎麦など、地産地消に力を入れた商品の提供により、来客数と販売金額を拡大している。

また、創意工夫をこらした月ごとのイベントや蕎麦打ち体験教室の開催による地域農業の振興や食農教育、施設周辺環境美化にも取り組むなど、地域の活性化に大きく寄与している。

【農業生産部門】

◆福島さくら農業協同組合郡山地区湖南夏秋とまと生産部会（郡山市）

キャッチフレーズ：「なりわいとして、ひとと地域が育んだ誇り輝く湖南トマト産地」



福島さくら農業協同組合郡山地区
湖南夏秋とまと生産部会の皆さん

郡山市湖南町においては、加工トマト生産者が生食用トマトへの転換を進め、昭和52年に「湖南夏秋とまと生産部会」を設立後、パイプハウスと共同選果体制の導入により、収量の安定と高品質化が実現している。

また、肥培管理改善のため部会員全員が樹液診断技術を導入することで、部会平均単収の向上を実現するとともに、作業を省力化できるタイマー式かん水装置を導入して、栽培面積の維持拡大を図る等、生産力の向上に積極的に取り組んでいる。さらに、部会員による丁寧なフォローにより、新規栽培者も定着し、担い手が確保されている。

エコファーマーの団体認定や部会が一丸となってFGAPの団体認証を取得する等、産地としての信頼を確保したことで、トマト栽培がなりわいとなり、人の定着、地域農業への振興に寄与している。

◆生産組合 ペルサルレーテ（小野町）

キャッチフレーズ：「小野町自慢の6次化商品 黒にんにくで町を活性化」



生産組合 ペルサルレーテの皆さん

小野町では離農や高齢化、担い手不足が顕著となる中、高齢者でも労力の負担が少なく継続的に取り組める品目を模索。平成26年に、従来から健康な土作り（ミネラル栽培）に取り組んでいた農家で「生産組合 ペルサルレーテ」を設立し、にんにくを加工した「黒にんにく」の特産化を目指した。

毎年、土壌分析を行い、たい肥やミネラル資材の施用等によるこだわりの土作りを実践し、健全な栽培管理、施肥コストと環境負荷低減に配慮した栽培に取り組んでいる。黒にんにくの加工では、加工用の釜の統一と糖度測定などにより品質の確保に努めている。品質の高さからリピーターが年々増加し、取り扱い店舗は町内外10か所に拡大している。

また、HPや情報誌への掲載や地域内外でのイベント出展により、黒にんにくと町のPRを積極的に行う等、町の活性化に寄与している。

◆会津よつば農業協同組合猪苗代稲作部会（猪苗代町）

キャッチフレーズ：「ブランド米による地域活性化の取組」



大嘗祭奉納米を収穫する猪苗代稲作部会の皆さん

全国的な米のブランド化競争と東日本大震災以降の県産米価格低下から、猪苗代町産米のブランド確立による販路確保や風評払拭等に取り組む、福島県オリジナル品種「天のつぶ」に着眼した栽培方法の確立と品質の向上、海外への販路拡大を実現している。

また、会津地方で初となるJGAPの団体認証取得、首都圏消費者との交流や、オリジナルブランド米「いなわしろ天のつぶ」を原料とした商品も数多く開発するなど、地域のモデルとなる取組を実践している。

こうした取組が後継者育成につながり家族経営協定数は9組、新規就農者2名を確保するなど、地域農業の活性化に寄与している。